



数々の国際賞に輝く佐々木昭一郎のみずみずしい感性にあふれた新作。

佐々木昭一郎は唯一無二の映像作家である。彼の創作に対する真摯な姿勢は今や伝説となっている。佐々木はテレビ演出家として、イタリア賞や芸術祭大賞など内外の数多くの賞に輝いた。彼の作品「四季・ユートピアノ」(1980)、「川の流ればバイオリンの音」(1981)など、類まれな詩的感性、斬新でみずみずしい映像で作られた作品は、多くの人を魅了し、後進の作家に強い影響を与えている。しかし佐々木は退職後、人々の前から姿を消し、旧作の上映会は常に満席にもかかわらず、新作のニュースを聞くことはなかった。本作は、佐々木の20年間近くの沈黙を破る待望の新作であり、初の劇映画作品である。

ソウルの学生ミンヨン是一枚の古い写真に心をとらわれている。亡き祖母の親友、佐々木すえ子の家族写真だ。すえ子への思いが募るミンヨンは、妹ユンヨンの後を追うように日本へ。そこで巡りあう人々、母に捨てられた少年、追われる青年、風鈴職人、笛職人…さらに彼女は時代を超えて戦争中のすえ子の人生を生きる。戦時の統制下、すえ子一家は人間らしく生きようとして様々な苦難を経験したのだった。—現代社会の不安のなか、ミンヨンは人々との交流や音楽の歓びをとおして美しいハーモニーへの夢を育ててゆく。



主人公ミンヨンのしなやかな感性。音楽とともに描く人々の夢や憧れ。

出演者はすべて、佐々木のこれまでの作品と同様に、この映画のために起用された一般の人たちだ。彼らに演技経験はないが、佐々木の手をとおして魔法のように圧倒的な存在感を感じさせる。主人公のミンヨンを演じるのは韓国在住のミンヨン。日本語も英語も堪能な彼女の強くしなやかな感性は驚嘆に値し、戦時中のすえ子役も演じて佐々木の期待に見事に応えた。ユンヨンは彼女の実際の妹であり、姉妹の仲睦まじさは心を和ませる。メインスタッフには、佐々木作品の3人の名手、吉田秀夫(撮影)、岩崎進(音響)、松本哲夫(編集)が再び結集し、それぞれに卓越した技で映画をより豊かなものにした。

佐々木は、現代社会の歪んだ状況に対して、この作品で音楽の豊かさを表した。使用音楽は彼の選曲であり、「箱根八里」「アリアン」などの日本と韓国の歌曲のほか、モーツァルトの名曲を全編で使用、交響曲41番「ジュピター」は武藤英明指揮(プラハ管弦楽団)によるチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の演奏、ピアノ協奏曲22番第3楽章は佐々木秋子のピアノによる。また全国一に輝く船橋市立船橋高等学校吹奏楽部、世界で活躍する若きギタリスト加藤早紀など、注目される個性ある演奏家が参加している。

佐々木昭一郎監督作品

ミンヨン 倍音の法則

Harmonics Minyoung

出演:ミンヨン ユンヨン 武藤英明 且部辰徳 高原勇夫ほか
監督・脚本:佐々木昭一郎 撮影:吉田秀夫 音響:岩崎進 編集:松本哲夫 録音:仲田良平 音楽:後藤浩明 助監督:黒川幸則
指揮:武藤英明 演奏:チェコフィルハーモニー管弦楽団、船橋市立船橋高等学校吹奏楽部 ピアノ:佐々木秋子 キター:加藤早紀
吹奏楽編曲:金山徹 音楽録音:HERB Classics村田崇夫+井口啓三、大友幸太郎
企画:プロデュース:はらだ たけひで 製作:山上徹二、佐々木昭一郎 製作:シクロ,SASAKI FILMS
協力:早稲田大学、立正大学、津田塾大学、船橋市、船橋市教育委員会、船橋フィルハーモニー管弦楽団、船橋市民文化ホール、重要文化財銅鑼殿
自然海塩製造販売所、篠原風鈴本舗、野田鶴声社、富士山房インターナショナル、大井川鉄道ほか
製作協力:岩波ホール 宣伝美術:小笠原正勝、秋山京子 宣伝:テレビザ、サニー映画宣伝事務所 配給:シクロ
[2014年日本映画/2時間20分] ©2014 SIGLO/SASAKIFILMS

www.sasaki-shoichiro.com



主催:TAMA映画フォーラム実行委員会

お問合せ(電話):080-5450-7204(事務局直通)
042-337-6661(永山公民館代表)
※上映当日は070-5580-9071(会場)へ



Twitterで最新情報をフォロー
[@tamaeiga](https://twitter.com/tamaeiga)



Facebookページに「いいね!」で参加
<http://www.facebook.com/tamaeiga>

至 新宿



会場:多摩市立永山公民館
ベルブ永山 5F
(東京都多摩市永山1-5)

ベルブホールは[京王相模原線・小田急多摩線]
永山駅から徒歩2分

至 多摩センター